

令和 5 年 6 月 25 日現在

機関番号：34510  
研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）  
研究期間：2017～2022  
課題番号：16KK0045  
研究課題名（和文）現代バングラデシュの若者のアイデンティティポリティクスからみる社会変動（国際共同研究強化）  
研究課題名（英文）Youth's Identity Politics and Social Changes in Contemporary Bangladesh (Fostering Joint International Research)  
研究代表者  
南出 和余（Minamide, Kazuyo）  
神戸女学院大学・文学部・准教授  
研究者番号：80456780  
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,600,000円  
渡航期間： 9ヶ月

研究成果の概要（和文）：本国際共同研究は、バングラデシュの1990年代生まれの若者たちがもたらす社会変容を明らかにすることを目的に実施した。2018年度に8ヶ月間バングラデシュ・ジャハングルノゴル大学人類学部に客員研究員として所属し、現地人類学者たちと共同研究を実施した。2019年2月に同大学にて国際シンポジウムを開催し、2022年3月にバングラデシュ学術出版社The University Press Limitedから"Millennial Generation in Bangladesh: Their Life Strategies, Movement, and Identity Politics"を刊行した。

#### 研究成果の学術的意義や社会的意義

本国際共同研究では、従来のバングラデシュをはじめとする南アジアに関する文化人類学研究に多くみられた社会階層別の議論に加えて、1990年代生まれという世代で区切った階層横断型の視点をもたらした。このことは、特定の階層の同世代を研究対象としてきた各人類学者が共同研究という形で集まり、議論を突き合わせてこそ可能になった成果であり、同研究分野に新たな視覚をもたらした。さらに、その成果を現地バングラデシュの学術出版社から英語で出版することによって、バングラデシュ国内の読者はもちろんバングラデシュ研究に従事する海外の研究者たちに対しても広く発信する機会となった。

研究成果の概要（英文）：This joint international research aimed to identify the social transformations brought about by the youth who were born in the 1990s in Bangladesh through anthropological research and perspectives. After conducting the fieldwork and series of discussions at the department of Anthropology of Jahangirnagar University in Bangladesh, in February 2019, we held an international symposium. The outcome was published as "Millennial Generation in Bangladesh: Their Life Strategies, Movement, and Identity Politics" by The University Press Limited, a Bangladeshi academic publishing house, in March 2022.

研究分野：文化人類学

キーワード：若者 バングラデシュ アイデンティティポリティクス 生活戦略 世代

## 1. 研究開始当初の背景

21世紀に入って以降バングラデシュは、常に年間経済成長率6%以上を維持する、いわゆる「高度経済成長期」にある。その成長を支える主要源は、バングラデシュからの海外移住労働者による送金と、多国籍企業からの発注を受けて展開されるアパレル生産業である。いずれの分野においてもその原動力は、同国の若者を中心とした「低賃金で豊富な労働力」の存在が大きい。現在約1億7000万の人口のうち、29歳以下が全体の48.5%、20-29歳が約2割(18.3%)を占めている。このなかでとくに農村出身の若者の多くは、1980年代後半から本格化した初等教育普及の取り組みとともに成長した「教育第一世代」である。彼らは親世代がほとんど経験しなかった教育経験を得て、多くが農村・農業を離れて都市に働きに出る。あるいはより高いレベルの教育を目指して、都市部のカレッジや大学へと進学する。

本国際共同研究代表者(以下、報告者)は、バングラデシュの現在の若者層(=1990年代生まれ)で農村出身の「教育第一世代」を、その子ども期(小学生時)から長期にわたって研究対象としてきた。博士論文『子ども域』の文化人類学的研究—バングラデシュ農村社会の子ども(2007年3月)において、当該者の子ども期に参与観察調査を行なって以来、以下の研究課題を通して、同一対象者の生活状況変化の過程を文化人類学的視点から継続的に追跡している。

- ① 特別研究員奨励費(平成20~21年度)「現代バングラデシュにおけるエイジング過程の変容—『子ども』から『おとな』へ」、研究代表者
- ② 基盤研究(B)(平成22~24年度)「南アジアの教育発展と社会変容—『複線型教育システム』の可能性」、研究分担者
- ③ 若手研究(B)(平成24~25年度)「現代バングラデシュの『教育第一世代』による『青年期の創出』と社会変容」、研究代表者
- ④ 若手研究(A)(平成27~29年度)「バングラデシュ経済成長下における若者の『移動』と文化形成」、研究代表者

調査のなかで報告者が重要視してきたのは、彼ら彼女らの主観的洞察である。かつてポール・ウィルス(1977)が『ハマータウンの野郎ども』で試みたように、既存の社会構造に統合されていく過程を受動的なものとして描くのではなくその過程にある当事者の洞察や制約との葛藤を民族誌的手法で丹念に描き出すことを、報告者自身も試みてきた。彼ら彼女らの社会経済的状況だけでなく、状況に対する把握や理解、少し先の将来に対する展望などを聞き取りながら、それらが親世代とどのように異なり、また親世代との間でどのような関係を築いているかを捉えてきた。ウィルス(1977)の研究と決定的に異なるのは、若者たちが参入する社会が、1970年代イギリスの強固な階層社会に比べて、現在のバングラデシュでは明らかに再生産性が弱く、全体として「先の見えない不安定さ」を抱えているということである。

本研究の基課題研究として実施した若手研究(A)「バングラデシュ経済成長下における若者の『移動』と文化形成」では、バングラデシュにおける1980年代後半以降の教育の普及と現在の著しい経済成長の影響を強く受ける「教育第一世代」の若者たちを対象に、彼らの農村から都市への空間移動と、学歴形成や就労による社会階層移動に着目し、彼らが「移動」を通じて築く新たなコミュニティと文化形成について検討した。農村出身の彼らを第一の調査対象として、さらに同世代を広く捉えるために、現地研究協力者の協力を得ながら、都市部の大学生、イスラームの宗教学校(マドラサ)で教育を受けてきた若者についても同様に、彼ら彼女らの背景と移動経験について調べた。

いわゆる高度経済成長下の若者については、日本の「団塊の世代」論をはじめ、先進諸国では特に戦後の「ベビーブーマー」が歩んだ経歴と社会変容に果たした役割に関する議論が先行する。しかし、バングラデシュをはじめ現在の新興国・発展途上国では、先進国が経験してきた国家主導型の経済成長とは異なる発展と生存戦略を、個人、社会、国家ともに模索している。情報化と新自由主義傾向の強いグローバル化が進む現代、若者たちは、与えられた選択肢から生き方を選ぶというよりは、限りない情報のなかで自らの生き方を模索している。階層間格差が大きいバングラデシュ社会においても、グローバル経済の底辺を支える豊富な低賃金労働力と見なされ縫製工場で働く若者たちから、高等教育の機会を海外に求める若者たちまで、グローバル化はさまざまに彼らに影響を及ぼしている。その一方で、経済を中心とした欧米型のグローバル化への抵抗から、日常実践としての宗教を超えて、イスラームをイデオロギー化し、そこに「あるべき姿」を追求する動きも見られる。2016年7月にバングラデシュ首都ダッカで起きたテロ事件の犯人が富裕層高学歴の若者たちであったことに、当該国内外が大きな衝撃を受けた。時代の影響を複雑に受けながら自らのアイデンティティ構築を模索する若者たちに焦点を当てることで、「若者」の視点から社会変動を検討しうるものと考え、本国際共同研究の着想に至った。

## 2. 研究の目的

上記の背景をもとに、本研究では、現代バングラデシュにおける1990年代生まれの若者層に関して、農村と都市、エリート層とノンエリート層、男性と女性、ベンガルムスリムと少数民族など多角的に捉え、彼ら彼女らの生活戦略、社会運動、アイデンティティについて議論することを目的とした。グローバル化や「イスラーム化」が、どの層の若者にどのような影響を与えており、

また彼ら彼女らが自己をどのように捉えているかを参与観察やインタビュー調査から明らかにし、そのうえで、当該社会の社会変動を「若者」の視点から描き出すことを目指した。若者たちは、階層社会に参入しながらもきわめて流動的な状況にあるがゆえに、彼ら彼女らの外的状況と内的解釈から社会を描くことが、現代のバングラデシュの「不安定さ」とダイナミズムを提示しようとするものと考えた。

### 3. 研究の方法

報告者のこれまでの研究では主に、特定の対象者について独自の参与観察を実施してきた。これに対して本国際共同研究では、海外共同研究者や海外研究協力者とともに、より当該社会全体を見通した研究を目指した。バングラデシュの同世代の若者を対象に各々の視点から人類学議論を展開していた複数の研究者に呼びかけて、研究対象地でもあるバングラデシュで、ジャハングルノゴル大学人類学部を本国際共同研究の研究拠点として実施した。本研究拠点先に所属する人類学者を中心に、当該社会の若者について研究実績がある第三国研究者や、グローバル化や「イスラーム化」について人類学的研究を進めている研究者らに研究協力者として入ってもらった。以下がメンバーである。

代表者	南出 和余	神戸女学院大学 文学部・准教授	農村出身都市労働者 都市移住労働の一時的性
共同研究者	Siddiqur Rahman	ジャハングルノゴル大学 人類学部・教授	都市部大学生 職業指向
共同研究者	Mahmudul H Sumon	ジャハングルノゴル大学 人類学部・教授	都市部少数民族 アイデンティティ
研究協力者	Humayun Kabir	ハンバーカレッジ (カナダ) 講師	マドラサ出身者
研究協力者	Ainoon Naher	ジャハングルノゴル大学 人類学部・教授	都市部 (女子) 大学生 イスラーム教義運動
研究協力者	Bulbul Ashraf Siddiqi	ノースサウス大学 政治社会学部・准教授	都市部大学生 イスラーム教義指向
研究協力者	Moiyen Zalat Chowdhury	BRAC 大学 社会経済学部・助教	都市部若者 SNS を介した社会運動
研究協力者	Lotte Hoek	エジンバラ大学 (イギリス) 政治社会学部・シニア講師	映画をめぐるオンライ ン・コミュニティ
研究協力者	Bethany Jennings	エジンバラ大学 (イギリス) 研究員	都市部貧困層若年女性

2018年8月から2019年3月末までの8ヶ月間を現地での共同研究期間に充てた。期間中に、各メンバーがフィールドワーク調査を実施して得られたデータを、定期的に開催する研究会で共有、議論した。その1次成果を議論するために、2019年2月に同研究拠点において、国際シンポジウム“Perceiving Contemporary Young Generation in Bangladesh: Their Life Strategies and Identity Politics under Globalization”を開催し、広くコメントを得た。その後、さらに現地での補足調査と原稿準備のための研究会を重ねて、2022年3月にバングラデシュ学術出版社 The University Press Limited から "Millennial Generation in Bangladesh: Their Life Strategies, Movement, and Identity Politics" を刊行するに至った。

### 4. 研究成果

現在の若者たちは、バングラデシュの経済成長の原動力であり、また教育の普及によって前世代とは大きく異なる子ども期から若者期を経験する「新世代」である。当該世代についての考察を深めることは、現在と今後のバングラデシュを理解するうえできわめて重要である。本研究では、この若者たちを対象に、とくにグローバル化とイデオロギー化する「イスラーム」を背景に、彼らの生存戦略とアイデンティティポリティクスについて明らかにした。

本共同研究成果として出版した編著書 "Millennial Generation in Bangladesh: Their Life Strategies, Movement, and Identity Politics" (Minamide, ed., 2022) の内容は以下の通りである。

Introduction	The 1990s Generation and Social Change in Bangladesh (Kazuyo Minamide)
Chapter 1	Seeking New Life: The Temporary Urbanization of Rural Migrating Youth (Kazuyo Minamide)
Chapter 2	Managing Urban Lives: Marriage and Employment among Working Class

	Young Women in Dhaka (Bethany Jennings)
Chapter 3	Career Strategies of Public University Students (Siddiqur Rahman)
Chapter 4	Negotiating Careers within Faith and Identity: The Madrasa-Educated Youth (Humayun Kabir)
Chapter 5	Attending Halaqas: A Recent Trend Among Young Urban Women (Ainoon Nahar)
Chapter 6	Ethnicity, Ethnographic Imagination, and Identity Construction of Mandi Youth in Dhaka (Mahmudul H Sumon)
Chapter 7	The Resistance Sociality of the Shahbag Movement: The Role of Urban Youth as Online Activists (Moiyen Zalal Chowdhury)
Chapter 8	The Burning of Youth: Identity and Pleasure in Online Chatrooms (Lotte Hoek)

本書の意義と独創性は、第1に、従来のバングラデシュをはじめとする南アジアに関する文化人類学研究に多くみられた社会階層別の議論に対して、1990年代生まれという「世代」の視点による階層横断型の見解をもたらした点にある。このことは、各々特定の階層の同世代を研究対象としてきた各人類学者が共同研究という形で集まり、議論を突き合わせてこそ可能になった成果であり、同研究分野に新たな気づきを与えた。

また、タイトルの「Millennial」に示されているように、本研究が着目した1990年代生まれは世界的にミレニアル世代（Y世代）と位置付けられ、冷戦終結後の民主化の流れや情報の加速化に象徴されるグローバル化の影響を色濃く受けながら育ってきた世代とされる。世界的な兆候はバングラデシュのこの世代にも例外ではない。1990年に民主化を迎え、特にバングラデシュでは、1971年の独立以降「小さな国家の下での市民社会」を好む新自由主義的傾向の強い国際社会からの支援と影響を受けながら、貧困対策や社会開発を進めてきた。その下で生まれ育った当該世代は、複線的な学校システムが同時並行的に普及する学校間を彷徨いながらも学歴神話を強く信じて階層上昇を目指す。

多くの者は、グローバル経済の下で、決して当事者たちにも歓迎されない条件での労働者の地位につく。その仕事を多くの労働者たちは、他に選択肢のないなかでの「一時凌ぎ」と捉えており、農村から都市への移住自体も「一時的」と捉えている者が少なくない。一方、高学歴者たちは、ごく一部の世代間再生産層を除いて、公務員職のような、ごく限られた「安定したチャンス」を求めて躍起になったり、学歴を積み重ね続ける者もいる。あるいは、そうしたなかで「正義」を求め、宗教も含めたイデオロギーを追求する。彼ら彼女らが追求するイデオロギーもまた、グローバル社会の影響を強く受けていることが分かる。

彼ら彼女らが築く思考は、現状への不満や不安からくる「過去への回帰」であったり、あるいはグローバル社会の文脈における「正義」だったりする。そうした思考での動きは当事者の内でもどこか現実味に欠け、ゆえに「熱し易く冷め易い」性質を帯びている。若者たちの築く感覚が、「若者期」という移行期の特殊性ゆえなのか、あるいはそれが新しい感覚として今後のバングラデシュ社会を築いて行くのか、本研究が今後も追っていくべき課題である。

本書の第2の意義は、現地バングラデシュの学術出版社（UPL）から英語で出版することによって、バングラデシュ国内の読者はもちろんバングラデシュ研究に従事する世界各国の研究者に対しても発信し、共同研究のあり方の事例を提示できたことである。出版後2022年5月にはUPLがオンラインでの講評会を企画し、バングラデシュ研究の第一線で活躍



する著名な研究者たちをコメンテーターに迎えて議論した（写真）。また、2022年12月に明治大学で開催された国際開発学会第33回全国大会のブックトークセッションで、UPL代表取締役Mahrukh Mohiuddin氏を招聘して、本書の出版に至る経緯とその意義についても報告した。

以上、コロナ禍の停滞期はあったものの、国際共同研究を通じて国際的なネットワークが形成でき、英語の編著書を刊行できたのは、次に繋がる経験となった。本研究によってバングラデシュ研究に世代論を提示し、1990年代という特徴から社会変動を明らかにできた意義は大きく、これを自らの研究の軸に今後も邁進していきたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 南出 和余	4. 巻 27
2. 論文標題 映像人類学による子ども研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子ども社会研究	6. 最初と最後の頁 53～71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57410/jschildstudy.27.0_53	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 南出 和余	4. 巻 36
2. 論文標題 「バンガラデシュ・ファッション・フィールド・スタディ」映像制作を手法としたフィールド教育の可能性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 女性学評論 = Woman's Studies Forum	6. 最初と最後の頁 63～90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18878/00005777	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 南出 和余	4. 巻 36
2. 論文標題 大学教育における南アジアフィールド教育の意義と可能性－宮城学院女子大学と神戸女学院大学における実践から－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 女性学評論 = Woman's Studies Forum	6. 最初と最後の頁 3～7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18878/00005774	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 南出 和余	4. 巻 2019
2. 論文標題 書評－茶谷智之著『依存からひろがる人生機会』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 南アジア研究	6. 最初と最後の頁 159～164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11384/jjasas.2019.159	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 南出 和余、アナム ムジブル	4. 巻 85
2. 論文標題 人類学者がフィールドに残すもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 226 ~ 241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.85.2_226	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Minamide Kazuyo	4. 巻 18
2. 論文標題 The temporariness of Bangladeshi migration in Greece	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Migration Letters	6. 最初と最後の頁 61 ~ 72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.33182/ml.v18i1.1139	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 南出 和余	4. 巻 26
2. 論文標題 子ども社会をフィールドワークする	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 子ども社会研究	6. 最初と最後の頁 137-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Minamide, Kazuyo	4. 巻 23
2. 論文標題 Seeking New Life in Bangladesh: Do rural migrating youth "urbanize" after moving to the city?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Nrvijnana Patrika (Journal of Anthropology)	6. 最初と最後の頁 11-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 南出和余	4. 巻 44(2)
2. 論文標題 バングラデシュ独立戦争の映画表象	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 桃山学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 15-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 南出和余	4. 巻 3
2. 論文標題 バングラデシュの女性たちが繰り広げるファッションビジネス	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 IDE スクエアコラム ワールド・イン・ファッション - 装いが映し出す世界の潮流 -	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 南出 和余	4. 巻 27
2. 論文標題 特集「子ども社会をフィールドワークする」に寄せて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子ども社会研究	6. 最初と最後の頁 7~8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57410/jschildstudy.27.0_7	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件(うち招待講演 4件/うち国際学会 9件)

1. 発表者名 南出 和余
2. 発表標題 バングラデシュで学ぶグローバル・イシュー：フィールド教育の転換
3. 学会等名 国際ボランティア学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Minamide, Kazuyo
2. 発表標題 Memories, Narratives in the Field of an Ethnographer: Notes on Professor Tadahiko Hara 's Ethnography
3. 学会等名 2019 Qualitative Methods Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 南出 和余
2. 発表標題 子ども社会をフィールドワークする(パネル趣旨説明)
3. 学会等名 日本子ども社会学会第26回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 南出 和余
2. 発表標題 Identity Negotiations among the Urban Youth of Ethnic Minority in South Asian Cities (パネル趣旨説明)
3. 学会等名 日本南アジア学会大32回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 南出 和余
2. 発表標題 人類学実践ツールとしての映像制作 - 関係の記録を例として
3. 学会等名 日本映像学会 中部支部第2回研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minamide, Kazuyo
2. 発表標題 Film of "The First Educated Generation: from their Childhood to Adolescence"
3. 学会等名 Bangladesh Studies Network Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Minamide, Kazuyo
2. 発表標題 Contemporary Young Generation in Bangladesh: Locating their Life Strategies in Global Settings
3. 学会等名 India-China Corridor Writing Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 南出和余
2. 発表標題 1990年代生まれの若者たちーバングラデシュの変化を背負って -
3. 学会等名 018年度TINDAS第3回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Minamide, Kazuyo
2. 発表標題 Inclusivism with Inequality: Ideology vs. Practical Effectiveness of Education
3. 学会等名 The 10th INDAS-South Asia International Conference "Inclusive Development in South Asia" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Minamide, Kazuyo
2 . 発表標題 Introductory: The Generation 1990s and the Social Change in Bangladesh
3 . 学会等名 International Symposium: Perceiving Contemporary Young Generation in Bangladesh: Their Life Strategies and Identity Politics under Globalization ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Minamide, Kazuyo
2 . 発表標題 Seeking New Life in Bangladesh: Do rural migrating youth “urbanize” after moving to the city?
3 . 学会等名 International Symposium: Perceiving Contemporary Young Generation in Bangladesh: Their Life Strategies and Identity Politics under Globalization ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Minamide, Kazuyo
2 . 発表標題 'The First Educated Generation' and their Rural-Urban Migration: Seeking New Life in Bangladesh
3 . 学会等名 KINDAS, Bangladesh Studies
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Minamide, Kazuyo
2 . 発表標題 Presenting Bangladesh Cinemas in Japan: How Japanese Audience Gets Interested in Bangladeshi Films
3 . 学会等名 A Special Symposium on Inter-Asian Cinematic Exchange between Japan and Bangladesh ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1. 発表者名 Minamide, Kazuyo
2. 発表標題 Anthropological Filmmaking Education to Promote Cross-Cultural Communication Skills
3. 学会等名 54th Annual Conference of the International Visual Literacy Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Minamide, Kazuyo
2. 発表標題 (Convener)
3. 学会等名 International Symposium: Youth in South Asia: Strategizing Life and Reshaping the Society (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 Minamide, Kazuyo (ed.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 The University Press Limited	5. 総ページ数 222
3. 書名 Millennial Generation in Bangladesh: Their Life Strategies, Movement, and Identity Politics	

1. 著者名 蘆田裕史、藤嶋陽子、宮脇千絵、赤阪辰太郎、朝倉三枝、有國明弘、五十棲巨、小澤京子、落合雪野、香室結美、川崎和也、菊田琢也、北村匡平、高馬京子、西條玲奈、鈴木彩希、関根麻里恵、高橋香苗、田中里尚、田本はる菜、中谷文美、難波優輝、新實五穂、野中葉、平田英子、平芳裕子、水野大二郎、南出和余、村上由鶴、劉芳洲	4. 発行年 2022年
2. 出版社 フィルムアート社	5. 総ページ数 292
3. 書名 クリティカル・ワード ファッションスタディーズ (グローバルマーケットと生産)	

1. 著者名 押川 文子、小原 優貴、茶谷 智之、安念 真衣子、野沢 恵美子（南出和余）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 263
3. 書名 教育からみる南アジア社会 - 交錯する機会と苦悩	

1. 著者名 田中雅一、石井美保、山本達也（南出和余）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 456
3. 書名 インド・剥き出しの世界（子どもの生は誰が守るのか バングラデシュの共同体の狭間で生きる子どもたち）	

1. 著者名 元森 絵里子、南出 和余、高橋 靖幸	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 208
3. 書名 子どもへの視角	

1. 著者名 南出 和余、木島 由晶	4. 発行年 2018年
2. 出版社 せりか書房	5. 総ページ数 242
3. 書名 メディアの内と外を読み解く：大学におけるメディア教育実践	

1. 著者名 粟屋利江、井上貴子（編）（南出和余）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学外国語大学出版会	5. 総ページ数 333
3. 書名 インドジェンダー研究ハンドブック（バングラデシュ女子の高学歴化と「女子大生」の挑戦）	

1. 著者名 Toshie Awaya and Kazuo Tomozawa (eds.) (Kazuyo Minamide)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 362
3. 書名 Inclusive Development in South Asia (Education to include the first educated generation into an unequal society in Bangladesh)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ラフマン シディクル  (Rahman Siddiqur)	ジャハングルノゴル大学・Department of Anthropology・Professor	

## 6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	シュモン マハムドゥル  (Sumon Mahmudul H)	ジャハンギルノゴル大学・Department of Anthropology・Professor	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
その他の研究協力者	コピル フマユン  (Kabir Humayun)	ハンバーカレッジ	
その他の研究協力者	ナハル アイヌン  (Naheer Ainoon)	ジャハンギルノゴル大学・Department of Anthropology・Professor	
その他の研究協力者	シディキ ブルブル・アシュラフ  (Siddiqi Bulbul Ashraf)	ノースサウス大学	
その他の研究協力者	チョウドリ モイヤン・ザラル  (Chowdhury Moiyen Zalal)	ブラック大学	
その他の研究協力者	ホク ロッテ  (Hoek Lotte)	エジンバラ大学	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
その他の研究協力者	ジェニング ベサニー  (Jennings Bethany)	エジンバラ大学	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 International Symposium: Perceiving Contemporary Young Generation in Bangladesh: Their Life Strategies and Identity Politics under Globalization	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Panel of 'Identity Negotiations among the Urban Youth of Ethnic Minority in South Asian Cities' at the 32nd Annual Conference of the Japanese Association for South Asian Studies (JASAS)	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Book Talk: Millennial Generation in Bangladesh: Their Life Strategies, Movement, and Identity Politics,' The 33rd Annual Conference of the Japan Society for International Development	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
バングラデシュ	ジャハンギルノゴル大学			